

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所ごうでいんぐ岩せヶ原		
○保護者評価実施期間	令和8年1月8日		～ 令和8年1月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	令和8年1月8日		～ 令和8年1月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月18日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたち一人ひとりの興味やペースを大切にしながら、子ども自身が“やってみたい”“できた”と感じられる活動を中心に据えています。 その中で、子どもの気持ちに寄り添い、共に楽しみながら遊びや日常の体験を通して成長されていくと推測します。	当事業所では、敷地内にある畑を活用し、子どもたちが四季の変化を感じながら自然と関わる活動を大切にしています。季節ごとに野菜を育てたり、畑に集まる昆虫を観察したりすることで、子どもたちは「発見する楽しさ」や「命を大切に作る気持ち」を育んでいます。また、自然体験だけでなく、地域の季節行事やイベントも積極的に取り入れ、子どもたちが地域社会とつながる機会を広げています。	今後は、新たに加わる指導員たちの若さとエネルギーを活かし、事業所全体がより活気に満ちた雰囲気になることを目指しています。経験豊富なスタッフと新しい力が協力し合うことで、子どもたち一人ひとりが持つ“秘めた力”を、より自然な形で引き出せる環境をつくり、子どもたちが「やってみたい」「もっとやりたい」と感じられるような、躍動感のある活動や遊びの場づくりを大切にし取り組んでいきたいと思えます。
2			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもたちの遊びの内容がパターン化していたため、そのパターン化に甘んじることで、安全の確保に結び付けてきた感は否めず、結果的に、決まった遊びや活動が中心となり、“パターン化された遊び”がさらに固定化されてしまってきたと感じています。そのため活動そのものが固定化し、子どもたちの新しい興味や挑戦の機会が十分に広がりにくいという問題が生じていたと考えています。 今後は、新しく加わる指導員の若さや柔軟な発想、そしてエネルギーあふれる関わりを取り入れることで、これまでのパターンにとらわれない躍動感のある活動づくりを進めていきたいと考えています。 新しい視点やアイデアが加わることで、子どもたちが「こんな遊びもあるんだ」「やってみたい」と思える場面を増やし、一人ひとりの秘めた力や可能性を自然に引き出していきたいと考えています。 私たちは、固定化した遊びから一歩踏み出し、子どもたちとスタッフが一緒にワクワクできる事業所を目指して、日々の支援をより豊かにしていきます。	当事業所では、長年勤務している指導員が多く、スタッフの年齢層が高くなっていました。また新しい人材がなかなか加わらなかったことから、活動内容や支援のスタイルが固定化しやすい状況が続いていました。このように若い指導員が入らず、外部からの刺激や新しいアイデアが入りにくかったため、次第に事業所全体の雰囲気が閉鎖的になり、「いつも同じ遊び」「同じ関わり方」が中心となってしまう傾向が見られました。	今後は、新しく加わる指導員の若さや柔軟な発想、そしてエネルギーあふれる関わりを取り入れることで、これまでのパターンにとらわれない躍動感のある活動づくりを進めていきます。新しい視点やアイデアが加わることで、子どもたちが「こんな遊びもあるんだ」「やってみたい」と思える場面を増やし、一人ひとりの秘めた力や可能性を自然に引き出していきたいと考えています。
2			